

第1回 奈良市総合教育会議 議事要録

開催日時	平成27年6月3日(水) 午後2時から午後3時まで	
開催場所	奈良市役所 北棟6階 21会議室	
協議題	(1) 奈良市総合教育会議の運営について (2) 大綱の策定方針について (3) 緊急の場合の対応について	
出席者	委員	仲川市長、杉江教育委員長、植松教育委員、都築教育委員、中室教育長 (欠席：金春教育委員)
	事務局	【総合政策部】中西部長、仲野総合政策課長、山岡総合政策課長補佐 【教育総務部】西崎部長 【学校教育部】梅田部長、亀井学校教育課長 【教育委員会事務局】北谷理事、石原参事、錦教育政策課長、小林教育政策課長補佐、塚原、牧野
開催形態	公開(傍聴人なし)	
担当課	教育委員会事務局 教育政策課	

議事の内容

【市長からの挨拶】

仲川市長 ○総合教育会議がスタートするが、本市では、従来から教育委員会と市長部局が比較的緊密な対話、連携を図ってきた。

○全国を眺める中で、やはり連携強化というところについては、まず最優先の課題だというふうに認識している。本市においても、これまで以上の連携強化という観点からこの会議をすすめたい。

【教育委員長からの挨拶】

杉江委員長 ○これまでも、市長と教育委員会とは様々な場面を通じて教育に関する意見交換を行ってきた。

○本日は、市長と教育委員が本市の教育の今後について率直に意見交換をし、十分な意思疎通を行っていく良い機会である。そして、この会議を受けて、我々、教育委員会も、市民の皆様の信頼と期待に応えるべく、引き続き、その責務を果たしていく。

(1) 奈良市総合教育会議の運営について

事務局から運営要領(案)について説明、出席者全員意見なしのため、要領決定。

(2) 大綱の策定方針について

市長から、大綱策定の方針について説明、出席者全員から賛成の意見が出される。

仲川市長 ○大綱策定の方針については、このまますすめさせていただく。

○市長部局と教育委員会の横串をさせた体制でやっていきたい。

○国から途中段階での色々な方向性、考え方などの情報を、この総合教育会議で共有できると、我々の議論も質が担保していける。

○内容的なところについての詳細の議論に入っていきたいが、事務局の方から案を説明する。

事務局 ○「1. 大綱の策定にあたって」では、策定の目的、社会情勢の変化、本市教育の現状と課題について記載する予定である。

○「2. 大綱の概要」では、めざす子どもの姿や、大綱の定める期間、重点戦略について記載する予定である。

○「3. 施策の概要」では、現在、進めていこうとしている教育改革を基に、大きく5つの柱を立て、そのねらい等について記載する予定である。

仲川市長 ○大綱の中身の部分について、テーマごとにご意見をいただきたい。

○一つめのテーマは、奈良市として『どのような子どもを育てていくのか』ということ。

杉江委員長 ○これからコンピュータやロボット、いわゆる機械が今後ますますイノベーションを進化させる中

で、人間が機械と共生できるのかどうか。つまり機械を使いこなし、機械と共生できる人間と、反対にこれまで人間がやっていた仕事を機械に奪われて働く場所を失って、貧困に陥ってしまう人間とに分化することが考えられ、経済格差がこれまでよりももっと広がっていく可能性がある。コンピュータやロボットと共生できる人間をどのように育成するかがこれからの大きな課題の一つになる。

植松委員

○私が教職についていた頃は、日々の授業の教材は全部手作りで、大切なところ、説明しづらいところは模造紙に書いて、そして黒板に板書をし、子どもの理解を深めるといったことをしていたが、今のようなハイテクの時代が来るということは夢にも思っておらず、予測もできなかった。

○現代の世の中は非常にめまぐるしく激しく変化しており、これから先どんな世になるか、予測できない中、いかなる世がきても豊かに生き抜く力をもつ子どもを育みたいと思っている。

都築委員

○すべてがグローバルリーダーになる必要はなく、自分で自分の可能性を引き出すことができる力、3つのキー・コンピテンシーで言うと、自立的に行動するということであり、そういう子は、他人の良さにも気づき、尊重していける。多様性を尊重し、共感していける子を育てたい。

○もう一つは、変わらぬものから感性を育むことも大切である。奈良には、自然や歴史的な文化、風土があるので、そういう大いなるものの力から学ぶことができる感性や気づきの力がないと、この社会はどんどんやせ細っていく。その中で、自分はどう生きていくのかということを探っていくことができる力をもった子をめざすのがよい。

中室教育長

○今の子どもたちにどのような教育をするかということを考えるときには、今の子どもたちが社会に出て活躍する時代はどんな時代が来るのだろうかということを考えないといけない。

○当然社会が変われば、求める力も変わってくる。右肩上がりの成長時代には、正確で速く処理する能力が求められていた。しかし、大きく社会が変わっていった時、コンピュータに取って代わられる職業が出てくる時代を生きていく時に求められるのはそんな力ではなく、自分で考え、自分で課題を見つけ、そしてそれを解決する方法を、周りとは協働して考え、自分で行動していく、というような力が要るのではないか。

仲川市長

○皆さんから頂いた意見は、私も共通する、共感する点が多かった。

○次のテーマである「どのような教育をしていくか」というところにつながるものでもあるが、私は、小学校や中学校の先生が関わった子どもたちが、その10年後20年後にどうなったか、教えたことがどのようにその人の人生を豊かにしたのか、いかに人生を変えたのかということとのリンクが今までは少し弱かった。また、社会の変化だとか、今、社会が求めている人材だとかに対して、学校現場の認識というのは、少しゆっくりとした流れで進んできている。

○今まさに教育の在り方を国の在り方に直結させて議論をしていこうという重要な局面に来ており、この機を捉えて、いかに建設的に姿かたちを変えていくかということや、「不易と流行」で、変えるべきところと変えてはいけないところの線引きについて、どんどん議論をしていくべきである。

○奈良は歴史都市であるので、どうしても古い所を大事にするというイメージがあるが、伝統の継承は革新と裏表の関係であると思うので、その辺りの線引きをしっかりとしていきたい。

○「どういう子どもを育てるか」という意見をいただき、その方向性に向かって、手段としてどういう教育が必要になってくるのか、ということについて、意見をいただきたい。

杉江委員長

○これからさらに進化し続けるコンピュータあるいはロボットといった、機械と共生できる人間を育成することが重要であり、このような機械をさらに進化させる技術力も身に付ける理工学教育というのか、科学教育というのか、これが一つ大事である。

○機械を自在に使いこなす能力を付けるために、ICT教育は欠かせない。また、機械に仕事を奪わ

れてしまう可能性のある人たちに対しては、キャリア教育によって雇用機会を拡大させる、というような視点も欠かせない。そうすると施策の概要「(2) 子どもの学びを変える」というところをかなり重視すべきである。

○もう一つの重要な視点、これは、格差論、格差の拡大というところから出てくると思うが、富裕層と中間層、あるいは貧困層というものの間の経済格差が拡大すると、それが教育の格差を産む可能性が増えるという点を指摘しておきたい。その点から言うと、公教育の在り方、その方向性というものを視野に入れておかなければならない。そうすると、施策の概要「(4) 子どもの学びの場を変える」、例えばバンビーホームの充実、子育て支援の充実といったところが重点施策になってくる。

○本日欠席の金春委員の意見をご紹介させていただく。私が伺ったところを簡単にまとめさせていただくと、子どもの成長にとって必要なことは、指導者、つまり教員の充実に尽きるということである。単に教員が知識を教える、豊富な知識を自分でため込んでそれを子どもたちに教えるということだけではなく、人格、あるいは行動、話術などが非常に重要な要素であり、人格的な面も含めて、魅力のある教員を育成することが重要である。教員研修にもそういう方面の内容を入れてはどうかという点で、施策の概要「(1) 教員を変える」を重視すべきであるという意見であった。

仲川市長

○学校現場だけではなくて、実際に社会に出てからどのような人材として活躍するか、人生を過ごすかという意味でのキャリア教育というのは非常に重要であるし、最近、高校で教育の課程が終わらないパターンが多いので、その後も見据えていかなるキャリア教育をしていくかというのは非常に重要な指摘である。

○金春委員から、教員の充実ということ、これもまさにその通りであるので、我々としても教員の資質向上をどのように図っていくのかということは、今後の議論の中でも進めていきたい。

植松委員

○「教育は人なり」と昔から言うが、言い換えると、人が人を育てていくのだと思う。そのためには、環境が非常に大切であり、何事にも意欲をもって学習していく子どもたちを育てるためには、人的環境、それから自然環境、これらも含む環境というのが非常に大事であると思う。

○確かな学力、そして自ら考えをもち、そしてそれを判断して行動できる人づくりが必要である。

仲川市長

○いわゆる課題解決型の教育、正解がない中で、どのような学びの形態をめざしていくのかという意見、特にアクティブ・ラーニングは、国の方でもこれからの教育の柱として重要だという発言が、政府から出されていたので、これもいろいろと事例を研究しながら取り組むべき課題と認識している。

都築委員

○ICT教育、英語教育、キャリア教育といろいろ並ぶが、これらは全て手法であり目的ではなく、こういう手法で、子どもたちが可能性を伸ばしていく教育をしていかなければならない。

○これまでの教育は、やはりインプット型で結果重視の教育である傾向が強かったが、これからは、学んだことをいかに使うか、アウトプット型でそのプロセスで何を学ぶか、というプロセス重視という教育が必要ではないか。教師にはそれをファシリテートする力が必要である。

○文化の貧困ということを感じている。家庭教育、地域教育も含めて、文化的なところを大事にした教育も必要ではないかと思っている。

○最後に格差の問題。義務教育では、最低限、生きていくための学力は付けてやらなければならない。市長部局と連携して、ソーシャルワーカーを増やすなど、しんどい子のケアも十分にしたい。

仲川市長

○いわゆる産業界が求める産業人材というところだけに偏重になってしまうと、文化が置いてけぼりになるというところは、非常に重要な検証である。そういう意味で、文化の衰退が国力の長期

的な低迷につながっていくということも大きいし、文化的なアプローチについて、この場で、
いろんな意見をいただければありがたい。

中室教育長

○子どもたちが自ら理想と今ある現実との間の課題を見つけて、それを解決する方法をみんなと協働して考え、あるいは自分が考えたことに対して一歩踏み出していく、という突破力と言うような力を子どもたちに、どんな時代が来ようと付けておかなければならないと思っている。その一つの方法として出されたのがアクティブ・ラーニングであり、こういう学びを変えていくということは、次の子どもたちにめざしていく姿であると思っている。

○ただ、基礎・基本のところというのは、子どもにきちんと付けなければならないので、小学校低学年の時からこういう学習を全部やるのではなくて、次第に増やしていく。やはり最初は、基礎・基本のところを、きちんと押さえしていくことが大事である。

○もう一つは、英語や ICT を使って、グローバル化した時代を生き抜いていくかということになると、やはり子どもたちが、自分は何者かというアイデンティティをしっかりとめることが大切である。奈良の子にはぜひもたせたい。

仲川市長

○いろいろと意見をいただき、大変貴重な意見ばかりで感謝している。今、いろいろといただいた意見を踏まえ、また、追加的なものもあれば、随時、事務局に声を届けていただきたい。また、現場からもいろんな声をいただきながら、この大綱を策定してまいりたいと思っている。

○次に協議題の3「緊急の場合の対応」ということで、事務局から説明する。

(3) 緊急の場合の対応について

事務局

○「1. 緊急の場合とは」では、緊急の場合につきまして、改正地教行法及び平成 26 年 7 月 17 日付文部科学省初等中等局長が発出した通知、いじめ防止対策推進法に記載されているケースを例示している。

○「2. 緊急の場合の対応の流れ」では、フロー図を示している。1で示したような緊急事態が発生した場合、学校から報告を受けた教育長が、速やかに市長に報告するとともに協議を行い、その協議の結果を受けて、教育長が学校に対して指示を行う、という流れを考えている。この協議の場が、運営要領第2条第4項で規定されている、市長と教育長のみで行う総合教育会議となっている。また、市長は、必要に応じて、調査委員会を設け、対応について報告を得ることも可能としている。

中室教育長

○緊急の場合、事務局には教員籍の者が多くいることから、学校現場だけの視点になってしまうことが多いが、市長に報告すると、市長は市民目線とか保護者目線での意見をいただくことが多いので、対応に広がりが出る。市長に報告をし、指示を受けながら対応をしてまいりたい。

杉江委員長

○現在、本市の教育委員会制度は、地教行法の改正法の附則で決められた経過措置をとっているが、緊急の場合は、市長と常勤の教育長とで素早い対応をしていくべきであろうと考えている。ただ、教育長から報告をできるだけ素早く教育委員会にも伝えていただき、教育委員会との情報の共有をさせていただきたい。

植松・都築委員 ○同じような考えを持っている。

仲川市長

○緊張感をもって、我々も対応していきたいと思っているので、緊急の場合については、こういった対応の形を基本として、進めていきたい。

○本日予定している協議題は以上であるので、事務局に進行をお返しする。